

「雀の子を、犬君が逃がしつる。完了「つ」体 (ふせご)伏籠の内にこめたり存続「たり」用

つるものを。完了「つ」体とて、いとくちをしと思へり。存続「り」終  
接助 形容詞・終

このみたる大人、「例の、心なしの、かかるわざをして

さいなまるるこそ、いと心づきなけれ。いづ方へか  
受身「る」体 係助 形容・已然(気に食わない)

まかりぬる。いとをかしう、やうやうなりつるものを。  
完了「ぬ」体 完了「つ」体 係助 形容詞・用

烏などもこそ見つけれ。」とて、立ちて行く。  
係助 係助

「もしたら大変だ」の意味 断定「なり」体 推定「めり」終  
髪ゆるるかにいと長く、目安き人なめり。  
形容動詞・用 形容詞・用 形容詞・体

少納言の乳母とぞ人言ふめるは、この子の後見  
推定「めり」体 係助 (うしろみ)

断定「なり」体 推量「べし」終

尼君、「いで、あなをさなや。言ふかひなうものし  
間投助詞 形容詞・用

給ふかな。終助おのが、かく今日明日におぼゆる命をば、  
⑤尼君↓若紫 存続「たり」未

何ともおぼしたらで、雀慕ひ給ふほどよ。罪得る  
⑤尼君↓若紫 接助・打消 ⑤尼君↓若紫 終助 (う)

ことぞと、常に聞こゆるを、心憂く。」とて、  
係助 係助 ⑤尼君↓若紫 形容詞・用

「うちや。」と言へば、つらふたり。つらつきと  
間投助詞 完了「たり」終

らうたげにて、まゆのわたりうちげぶり、いはけなく  
形容動詞・用 形容詞・用

かいはりたる額つき、髪ざし、いみじうつつくし。  
完了「たり」体 (かん) 形容詞・用 形容詞・終

ねびゆかむさまゆかしき人かなと、目とまり給ふ。  
婉曲「む」体 形容詞・体 終助 ⑤作者↓源氏

さるは、限りなく心を尽くし聞こゆる人に、いとよう  
形容詞・用 自発「る」体 詠嘆「けり」終 ⑤源氏↓藤壺 形容詞・用

似奉れるが、まもらるるなりけりと、思ふにも涙ぞ  
⑤源氏↓藤壺 断定「なり」用 係助

落つる。  
※戻くし「聞こゆる」「似「奉れ」の二つは、直後の「〜と、思ふ」に繋がって源氏の心を表すので、源氏からの敬意となる。

「雀の子を、犬君が逃がしてしまったの。伏籠の中に入れておいたのに。」

と言っていたいそう残念に思っている。

この座っている女房が「いつもの、不注意者がこのようなことをして

叱られるなんて、本当に気に食わないことだ。どこへ(逃げて)行ってしまったのか。たいへん可愛らしく、だんだんとなってきたのに。

カラスなどが見つけたら大変だ。」と言って立って行く。

髪がゆったりとしていて、大変長く、見た目感じの良い人であるようだ。

少納言の乳母と人が呼んでいるようだが、この子の世話役であるのだろう。

尼君は、「いやまあ、なんと、子供っぽいことよ。たわいなくいらっしやることよ。」

私の、このように今日明日に思われる命を、

なんともお思いにならないで、雀を慕いなさって  
いることだよ。(生き物を捕まえることは)罪を受けることだと、普段から申し上げているのに、困ったこと。」と言っ、

「うちや(うらっしやう)。」と(尼君が)言つと、そこにひざまずいた。その顔つきはたいへん可愛らしく、眉のあたりがほんのりと美しく、幼

くかき上げた額の様子や髪の様子がたいへん可愛らしい。

成長してゆく様子を見ていたい人だなあ、と目をおとめになる。

それも、限りなく心を尽くし申し上げる人によく似申し上げているので、思わず見つめてしまうのだなあ、思うにつけても涙が落ちる。